Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-20

原始社會ニ於ケル交換有無問題(3)

米田, 庄太郎

(Citation)
經濟學商業學國民經濟雜誌,14(3):423-469

(Issue Date)
1913-03

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051995

原始社會ニ於ケル交換有無問題（其三）

京大文科講師　米田庄太郎

（三）結　論

余ハ本論文第一節ニ於テハ、原始社會或ハ原始人ノ間ニ於ケル交換有無問題ニ關スル現今ノ學説中、先ヅ第一ニ注目ス可キモノトシテ、ビユヒヤー氏ノ説ヲ批判的ニ敍説シテ其主眼點ヲ明ニセント試ミ、次ニ第二節ニ於テハ、主トシテ土俗學上ノ研究ヲ基礎トシテ、氏ノ説ニ加ヘラレタル最近ノ批評、及ビ氏ノ説ニ反對シテ立テラレタル新説ヲ、ヤハリ批判的ニ敍述シテ、以テ本問題ニ關スル最近ノ研究ノ一般ヲ概觀シタガ、終リニ本節ニ於テハ本問題ニ關スル愚見ノ大要ヲ述ベントスルノデアル。

(1)原始社會研究法ニ就テ。

夫レ原始社會ヲ以テ、既ニ全ク消滅セルモノニシテ、今日地球上ニ生存スル自然人民中如何ニ劣等ナルモノモ、此階段以上ニ進ンデ居ルト見ルニ於テハ、之ヲ研究

スルニハ如何ナル方法ヲ用ユ可キカト云フコトハ、甚ダ重要ナル問題トナルノデアル。サレバウオドン氏ガ先ヅビユヒヤー氏ノ研究法ヲ批評シテ、氏ノ說ヲ根本的ニ覆サントセルハ、正當ナル方針ヲ採レルモノト云ハヲバナラヌ。サレドウオドン氏ノ批評ノ內容ハ果シテ其方針ト同樣ニ正當ナルモノデアラウカ。

昨年中ニ出版サレタル組織的社會進化論上ノ二大著作ト見做ス可キヴント氏ノ民族心理學 Wundt, Elemente der Völkérpsychologie, 1912 及ビ伊太利ノコセンチニ氏ノ社會學 Cosentini, La Sociologia, Genesi ed evoluzione dei fenomeni Sociali, 1912 ハ、何レモ原始人或ハ原始社會ノ研究法ニ就テ稍々詳シク論述シテ居ル併シヴント氏ノ說ハ大體上ウオドン氏ヤゾムロ氏ノ說ト一致シテ居ルカラ、卽チ現存ノ自然人民中最モ劣等ト見做サルヽモノヲ選集シ、之ヲ材料トシテ原始社會ヲ思想上構成セントスルモノデアルカラ、玆ニハ別ニ氏ノ說ニ就テ述ブル必要ハナイガ、唯此方法ニ就テ一言注意ヲ加ヘテ置キタイコトガアル。是レ何レノ自然人民ガ最モ劣等ナルモノ、或ハ比較的ニ最モ原始的ナルモノデアルカト云フ問題ニ就テ、諸家夫レ夫レ見ル處ヲ多少異ニシテ居ルコト、時ニハ相反對シテ居ルコトデアル。例ヘバスペンサーハ

最モ劣等ナルモノトシテ（此處ニ擧ゲル自然人民ノ名稱ニ就テハ便宜上總テ獨逸語ヲ用ヒテ置ク）Die Feuerländer, gewisse Australier, Wald-Weddas, Buschmänner, Chepangs und Kasundas am Nepal, (Spencer, Principles of Sociology, vol. I, S. 257) ヲ擧ゲテ居ルガ、ヴツシエルハ稍々之レト異リテ Die Büshmänner, die Weddahs, die Mincopie, die Australneger, die Tasmanier, die Feuerländer, die Botokuden (Peschel, Völkerkunde, 5. Aufl. S. 144) 等ヲアゲ、更ニエルマンハ Die Ainos, die Nicobarier und Andamanen-Insulaner, die Weddas, die Negritos der Philippien, die Bakairi, die Botokuden, die Ciamacocos, die Feuerländer, die Seri-Indianer, die Tasmanier, die Australier (Paul Hermant, Les Coutumes et les Conditions Économiques des peuples primitif, 1904, S. 19) ヲ擧ゲテ居ル。前節ニハゾムロ氏ノ最モ劣等ト見ル自然人民ノ表ヲ擧ゲテ置イタガ、是レ亦茲ニ擧ゲタル諸家ノ表ノ何レトモ異ナツテ居ル。殊ニ注意ス可キハ、此等ノ諸家ハ何レモアウストラリー土人ヲ以テ最モ劣等ナル自然人民ノ一ト見做シテ居リ又ゾムロ氏ノ如キハ、之ヲ最モ重要視シテ居ルガ、然ルニヴント氏ハ上ニ擧ゲシ新著ニ於テハ、アウストラリー土人ノ文化ハ恐クハ幾千年ノ永キ發達ヲ前定シテ居ルトテ、彼等ヲ原始人ノ部類中ヨリ除カレテ居ルコトデアル。(Elemente, S. 19.)而シテ同氏ハ Die Pygmäen, die Negritos der Philippinen, die Inlandstämme der Halbinsel Malakka, die

Weddas auf Ceylon, die Buschmänner, die Bevölkerungsreste mutmasslicher Ureinwohner in Vorderindien, auf Celebes, Sumatra, den Sundainsel usw., die Bewohner der Andamanen 等ヲ選集シテ居ル。ヴント氏ノ民族心理學及ビ此ノ最近ノ著作ニ就テハ「心理研究」本年一月號及ビ二月號ニ掲載セル余ノ「ウントノ民族心理學」ト余輩ノ社會學ト題スル論文ニ於テ詳シク論述シテ居ルカラ參考ニ供セラレタイ之ニ依テ見レバ現存自然人民中最モ劣等ナルモノヲ選集シ、之ヲ材料トシテ原始狀態ヲ推測スルト云フ方法モ其形式ニ於テハ多クノ學者ノ一致シテ居ルニ係ラズ、實際ニ於テハ其選定スル自然人民ガ人々ニヨリテ種々異ナツテ居ルノデアル。而シテ之レガ爲メニ又自カラ其論結ニ差異ヲ生ジテ居ルノデアル。

然ルニコセンチニ氏ガ其新著ニ於テ論述セル原始社會研究法ハ、恐クハ從來現ハレタル內ニテ最モ包括的組織的ナルモノデアルト考ヘルカラ、茲ニ其大要ヲ述べ、原始社會ヲ考究シテ滿足ナル結果ヲ收メンニハ、如何ニ複雜ナル方法ヲ用ヒヲバナラヌカヲ示ス。氏ハ從來諸家ノ用ヒタル方法、又今後用ユ可キ方法ヲ原始社會研究ノ源泉ト云フ名目ノ下ニ包括シテ、左ノ八種ニ分類サレテ居ル。

1 動物社會及ビ動物生活ノ觀察、動物社會及ビ動物生活ハ其生物的欲望ノ類似又ハ其初發的狀態、其端緒的形態ニヨリテ、原始人ノ夫レト多クノ點ニ於テ類似

シテ居ラヰバナラヌト思ハレル。

2 旅行者ノ說話ヲ基礎トスル野蠻人ノ研究、野蠻人ハ原始人ガ長年月間持續シテ居ツタト思ハル、カノ禽獸的ナル劣等ナル狀態ヲカナリニ復現スルモノデアル。

3 古人種學(バレツノロヂア)及ビ古生物學ノ提供スル材料、是レ他ノ資料ヨリモ一層興味アルモノデアル。蓋シ吾人ヲシテ直接ニ原始世界ニ接觸セシムルモノデアルカラデアル。

4 永キ時代ニ亘レル或特異ナル社會ノ發達ニ關スル直接歷史的說話。

5 古代ノ成文法、習慣。

6 神話、民族傳說、考古學的遺物遺蹟、之ニヨリテ吾人ハ直接ニ觀察スル能ハザル時代ニ遡ルコトガ出來ルノデアル。

7 心理學的歸納、是レ傳說、遺物、遺蹟等ノ解釋ニ就テ適當ナル注意ヲ與ヘ、吾人ヲシテ其生存スル境遇ニ於ケル原始人ノ行動ヲ直覺スルヲ得シムルノデアル、

8 原始時代ノ無數ノ殘存物(タイラーノ所謂 Survivals)、

此等ノ殘存物ハ歷史的時代ニ於テモ發見セラル。蓋シ原始人ノ信仰、習慣、欲望等ハ無數ノ變動ヲ受クルニ係ラズ、心理學的遺傳ノ法則ニ從ヒ、尙ホ常ニ多クノ原始性ヲ保持シテ後ニ傳ハルカラデアル。

コセンチニ氏ハ此等八種ノ資料ニ就テ、夫レ夫レ其相對的價値ヲ評定シタル後、「此等ノ種々ナル研究ニヨリテ得ラレタル結果ヲ吟味シテ見ルト、總テ此等ノ資料ノ何レモ充分ナル證據ヲ提供シナイト論結スルコトガ出來ル。吾人ハ此等種々ナル研究ノ與フル結果ヲ比較對照スルコトガ必要デアル。社會的研究ノ種々ナル方法ヲ相互ニ補充スルコトガ必要デアル。此等ノ方法ノ與フル事實竝ニ觀念ノ連絡結合ヲ思想上組ミ立テ、原始世界ニ就テ出來ルダケ完全ナル觀念ヲ作ルニハ、心理學的分析ノ援助ガ必要デアル」ト論斷シテ居ル。要スルニ原始社會ニ就テ出來ルダケ完全ナル觀念ヲ作ルニハ、種々ナル方法ニヨリ、種々ナル方面ヨリ數多ノ材料ヲ蒐集シタル後、之レニ心理學的再構成Psychological Reconstructionヲ施スコト、卽チ之ヲ心理學的ニ練リ上ゲ組ミ立テルコトガ必要デアル。サレバ原始社會ノ研究法ハ甚ダ複雜ナルモノニシテ、普通ニ考ヘラレテ居ル如ク單純ナルモノデハナイノデア

ル。而シテ今カヽル標準ニ照ラシテ考フルトキハビユヒヤー氏ノ研究法モ亦ウオドン氏ヤゾムロ氏ノ研究法モ共ニ甚ダ不完全ナルモノデアルト云ハヲバナラナイ。併シ茲ニ此等諸氏ノ研究法ニ就テ詳シク之ヲ吟味スル暇ハナイカラ、唯ウオドン氏ガビユヒヤー氏ノ研究法ニ加ヘタル批評ノ主要點ニ就テ少シク論述シ、以テビユヒヤー氏ノ研究法ノ眞價ヲ判定スルコトヽスル。

ウオドン氏ガビユヒヤー氏ノ研究法ニ加ヘタル批評ノ主要點ハ、ビユ氏ノ研究法ハ氏自カラ吹聽セラルヽ如ク歸納的ナルモノ、卽チ虛心平氣ニ事實ヲ探求蒐集シ、夫ヨリ一定ノ論結ニ進マントスルモノデハナク、前以テ一定ノ前定或ハ假定ヲ立テヽ置テ、夫ヨリ此前定ニ都合ヨキ事實ヲ任意ニ土俗學的研究中ヨリ採リ集メ、而シテ其前定ヨリ見テ此等ノ事實ニ解釋ヲ下シ、以テ其假定ヲ詳シク開展セントスルモノデアルト云フ點デアルト思ハレル。余モウオドン氏ト同ジクビユ氏ガ切リニ歸納的ヲ衒ハヽルヽニ係ラズ其ノ實、氏ノ研究法ノ眞髓ハウオドン氏ノ指摘シタルガ如キモノデアルト信ズル。併シ原始社會ノ研究ノミナラズ、總テ社會現象ノ研究ニ就テ、實際上ビユ氏ノ用ヒテ居ルガ如キ方法ハ、ウオドン氏ノ非難スルガ如

ク、果シテ不正ナルモノ、誤ツテ居ルモノデアルカ。是レ余ノ茲ニ論述セントスル問題デアル。

抑々社會現象ノ如キ複雜極マリナキモノヽ研究ニ於テ、無前定歸納法ナルモノハ實際上果シテ適用サレ得ルモノデアラウカ。唯事實ノ蒐集其事ヲ樂シム一種ノ奇僻ヲ有スル人ナレバイザ知ラズ、事實ノ内ニ觀念ヲ發見シ、事實ノ生命ヲ味ハントスル人、卽チ眞ニ學者ト稱ス可キ人ニシテ嘗テ無前定歸納法ヲ嚴正ニ用ヒタル人ハアラウカ。余ハ何ノ前定ヲモ立テズシテ、事實ノ探求蒐集ノミヲ喋々スル人々ハ、常ニ唯事實ノ蒐集ニ止マリ、學理上價値アル何物ヲモ提供シテ居ラナイ樣ニ思フ。之レニ反シテ何カノ觀念ヲ發見シ、何カノ原理ヲ立テタル人々ハ常ニ何カノ前定ノ下ニ事實ヲ蒐集シ其ノ事實ニ就イテ其ノ前定ヲ徵驗シタル人デアルト思フ。サレバ何ノ前定ヲモ立テズシテ事實ヲ蒐集シ、而シテ其事實ニ歸納法ヲ適用シテ、此ノ如キ理法ニ達着シタノデアルト吹聽スル又自カ此ク信ズル人々ニ於テモ、吾人若シ嚴密ニ其人々ノ研究ノ過程ヲ吟味スルトキハ、殆ンド常ニビユヒヤー氏ノ個人的食物探求說ニ於テ見ルト同樣ノ事實ヲ發見スルノデアル。卽チ意識的又ハ

無意識的ニ一定ノ前定ノ下ニ事實ヲ蒐集シ、而シテ其事實ニ就テ其前定ヲ徵驗シ、之ヲ學說又ハ理法ニ練リ上ゲタルモノデアルコトヲ發見スルノデアル。之ニ反シテカヽル方途ヲトラザル人々ハ常ニ唯事實ノ蒐集ニ止マリ、其內ヨリ何物ヲモ發見セズ、何ノ學說ヲモ立ツルニ至ラズシテ其人々ノ研究ハ終ツテ居ルト思ハレルノデアル。要スルニ前定ヲ立ツルコトハ有益有效ニ事實ヲ蒐集スル一ノ必要條件デアルト思フ。然ルニ今日社會學及ビ其他ノ社會的學問ヲ研究スル人々ハ、一般ニ此點ヲヨク會得セズシテ所謂無前定歸納法ヲ以テ唯一眞正ナル方法デアルガ如クニ說イテ居ル。而モ彼等ノ之ヲ說クハ唯其研究法ヲ論ズル場合ニ限リ、實際ノ研究ヲ行フニ當テハ常ニ意識的又ハ無意識的ニ或ル前定ヲ立テ、其前定ヲツタフテ研究ヲ進メテ居ルノデアル。ビユヒヤー氏ノ研究法ヲ非難スルウオドン氏ノ研究法ヲ吟味シテモヤハリ同ジ事實ヲ發見スル。卽チ氏自身モヤハリ或前定ヲ立テヽ居ルノデアル。サレバ前定ヲ立ツルコト其事ガ決シテ不合理デアルトモ、誤謬デアルトモ云フコトハ出來ナイ。不合理デアリ、誤謬デアルカ、又ハ合理デアリ、眞理デアルカハ、前定其物ニ就テ云フ可キコトニシテ、前定ヲ立ツルカ、立テナイカニ就テ云

フ可キコトデナイト思フ。而シテ前定ハ一般ニ確實ナル基礎ノ上ニ立テラル可キモノデアルガ、之レモ必ズソウデナケレバナラヌト云フノデハナイ。一時ノ思付デアツテモヨイト思フ。古來天下ヲ動カセル學說又ハ敎說ニシテ天才ノ一時的思付ニ淵源セルモノガ少ナクナカラウト思フ。要ハ唯前定ガ如何程事實ニ就テ徵驗セラレ、正當ニ精練セラレ得ルヤ否ヤニアルノデアル。

余ハ以上述ベシガ如ク思考スルヲ以テ、ビユヒヤー氏ノ研究法ハウオドン氏ノ非難スル如ク、一定ノ前定ヲ立テヽ居ルガ爲メニ直チニ不合理デアルトモ誤謬デアルトモ考ヘナイ。併シ是レ唯氏ノ研究法ノ形式ニ就テ云フダケデアツテ、氏ノ立テタル前定ガ果シテ氏ノ信ズルガ如キ價値ヲ有シ、事實ニ就テ徵驗セラルヽモノナルヤ否ヤハ別問題ニシテ、更ニ余ノ改メテ論評セントスル處ノモノデアル。要スルニ余ハ氏ノ研究法ハサキニ述ベシコセンチニ氏ノ說ニ照ラシテ考フレバ、不完全デハアルガ、併シウオドン氏ノ非難スルガ如ク不合理デアルトモ又謬テ居ルトモ思ハナイノデアル。

(2) 個人的食物探求說、

サキニ述ベシ如クビユヒヤー氏ノ原始社會或ハ原始人ノ研究ハ一定ノ前定ノ下ニ遂行サレテ居ルノデアル。サレバ原始經濟狀態ハ個人的食物探求ノ狀態デアルト云フ氏ノ論結、卽チ氏ノ個人的食物探求階段說ノ價値ヲ根本的ニ評定スルニハ、吾人ハ先ヅ氏ノ前定ハ前定トシテ如何程ノ價値ヲ有スルカ、卽チ總テ學問的研究ニ於テ有力有效ナル前定ヲ立ツル方法ノ點ヨリ見テ、如何程ノ價値ヲ有スルカヲ吟味シ、次ニ氏ハ其前定ヲ事實ニ就テ如何程徵驗シタカヲ吟味セヲバナラヌト思フ。カヽル吟味ヲ經テ玆ニ氏ノ說ノ眞價ガ根本的ニ決定セラルヽノデアル。

サテ氏ノ前定ハ如何ナルモノデアルカト云フニ、第一節ニ於テ述ベシ處ニヨリテ察知セラルヽ如ク、其最モ根本的ナルモノハ「人類ガ下等動物ノ左右スルヨリ以外ニ如何ナル補助手段ヲモ具ヘズシテ生存競爭ニ參加セヲバナラヌト云フガ如キ原始狀態」デアル。然ラバ氏ハ如何ナル根據ニヨリテカヽル前定ヲ立テラレタカト云フニ、氏ハ別ニ之レニ就テ論述スル處ナク、唯「カヽル原始狀態ヲ假定スルコトハ人類發展史ヲ狙ラフ一切ノ科學ニ必要缺ク可カラザル方便ノ一デアル」ト云フニ止マツテ居ル。又氏ハ此前定ヲ詳シク說明モシテ居ラナイ。然ルニ今ヨク注意シ

テ考フルト、氏ハ此前定ニ暗ニ一定ノ觀念ヲ附加シテ居ルコトヲ、直チニ發見スルコトガ出來ルノデアル。是レ卽チ動物界ニ於ケル生存競爭ハ「精々ノ處群ヲナシテ行ハル、ニ止マリ、而モ此群タル箇體ノ生存ヲ助クルホドノ社會的意義ヲ有セザルモノデアル」、ツマリ動物ハ社會的團結的デハナク箇別的孤立的ニ食物ヲ探求シテ生活スルモノデアルト云フ觀念デアル。而シテ此觀念コソ實ニ氏ヲシテ個人的食物探求說ニ到達セシメタル導線デアルト思フ。一層適切ニ云ハヾ、氏ハ此觀念ヲ土俗學的事實ニ就テ徵驗シテ以テ之ヲ個人的食物探求說ニ精練或ハ開展シタノデアルト思フ。サレバ氏ノ前定ニ於テ特ニ注目ス可キハ此觀念デアル。然ラバ氏ハ如何ニシテ此觀念ヲ作ラレタカト云フニ、之レ亦氏ハ別ニ說明シテ居ラナイ、而モ其性質カラ考ヘテ、此觀念モヤハリ動物生活ノ觀察ヨリ「ヒント」ヲ得テ作ラレタルモノデアルコトハ明カデアル。要スルニ氏ノ前定ハ總テコセンチニ氏ガ原始社會研究ノ八種ノ源泉ト稱スルモノ、第一種、卽チ動物社會及ビ動物生活ノ觀察ニ基ヅケルモノデアル。是ニ於テカ、直チニ余輩ノ腦裡ニ浮ブ問題ハ動物ノ生活、殊ニ人類ニ近キ似人猿ノ生活ハカヽル前定ヲ許スモノデアルヤ否ヤト云フ問題デアル。

而シテ之ヲ決定スルニハ、余輩ハ所謂動物社會學ノ研究、或ハソルヴエー派ノ社會學者ノ Éthologie animale ト稱スル研究ニ訴ヘヲバナラナイノデアル。(Éthologie animale ノ觀念及ビ研究法等ニ就テハ、Waxweiller, Esquisse d'une sociologie, 1906, chap. II et III ヲ見ヨ。又其研究材料ニ就テハ、ソルヴエー社會學館發行ノ Archives Sociologiques, Éthologie et psychologie animale ノ部ヲ見ヨ。)

夫レ動物社會ノ科學的研究ハ千八百七十年代ヨリ勃興シテ居ル。今日斯研究ニ於テ常ニ「オーソリチ」トシテ引用セラルヽペリエ、ウーゾー、エスピナ等ノ著作ハ何レモ此年代ノ初メニ現ハレタルモノデアル。(Perrier, Les colonies animales, 1873. Houzeau, Études sur les facultés mentales des animaux, 1872. Espinas, Des Sociétés animales, 1873. 但シ斯研究ニ豐富ナル材料ヲ供スルモノトシテ珍重サレテ居ル Brehm, Illustriertes Thierleben 第一版六卷ハ 1863—69. ニ出版サレテ居ル。) エスピナ氏ノ著作ハ殊ニ社會學者間ニ動物社會研究ノ必要ヲ感ゼシメ、又其研究ノ興味ヲ大ニ惹起シタモノデアル。而シテ其後動物心理學ノ研究ト相伴ナフテ動物社會ノ研究ハ可也發達シ。有益ナル著作論文ハ現ハレテ居ルガ、併モ動物心理學ノ發達ニ比スレハ尙ホ幼稚デアル。

本世紀ニ入リテヨリ現ハレタル動物社會ノ研究ニ關スル著書ノ殊ニ有益ナルモノハ左ノ諸書デアルト思フ。

Lamsere, Assoesaiions biologiques, 1900.

Girod, Les Sociétés cleez les animaux, 1901.

Canestrini. Le Società degli animali, 1906.

Pettrucci, Origine polyphylétique, homotypie et son Comparabilité directe des Sociétés animales, 1906.

Pellaccani, Indole e forme della associazioni Animali, 1909.

雜誌論文ニ就テハサキニ掲ゲシ Archives sociologiques ヲ見ヨ。

動物心理學ノ研究ニ於テハ既ニ Behavior Journal of Animal Behavior ノ如キ專門雜誌モ發行サレテ居ツテ、動物社會ノ研究ハ之ニヨリテ大ニ裨益サレテ居ルノデアル。

茲ニ動物社會ノ研究ニ就テ詳シク論述スル暇モナク、又必要モナイト信ズルカラ、唯ビユヒヤー氏ノ前定ヲ評價スルニ必要ナル範圍ニ於テ論ズルニ止メテ置クガ、抑々動物界ニアリテハ彼等ノ團結ハビユヒヤー氏ノ考フル如ク、精々ノ處群ヲナスニ止マリ、箇體ノ生存ヲ助クル程ノ社會的意義ヲ有シナイモノデアラウカ。語ヲ換ヘテ云ハヾ、所謂動物社會ナルモノハ唯群ニ過ギズシテ眞ニ社會ト稱ス可キモノデハナイノデアラウカ、此ノ如キ問題ヲ提出スルト、更ニバルドウイン氏ノ主張スル Society ト Company ノ區別ト云フガ如キ難問題ヲ論ゼヲバナラナクナルガ、(Baldwin, Social and Ethical Interpretations in Mental Development, 2nd Edition, p. 485—487) 併シ茲ニハカヽル理論的問題ハ避ケテ、唯實際上動物ノ生活ニ於テハ社會的團結ハ箇體ノ生存上サホド重要ナルモノデナク、假令彼等ハ相集マルモ唯群ヲナスニ止マリ、

ヤハリ箇別的食物探求ニヨリテ生活シテ居ルヤ否ヤ、殊ニ人類ニ近キ似人猿ニ於テ此ノ如キ生活狀態ハ發見セラルヽヤ否ヤヲ考究スルニ止メル而シテ此問題ヲ解決スルニハ先ヅ所謂動物社會ノ分類ヲ考察スルコトガ便宜デアルト思フ。

動物社會ノ分類ニ就テハ、既ニエスピナ氏ハヤヽ詳シキ研究ヲ試ミテ居ル。(エスピナ氏ノ「動物社會」ノ第一版ハ云フマデモナク、千八百七十八年ニ公ニサレタ第二版モ絶版ニナツテ居ツテ、今日手ニ入レルコトガ出來ナイ。併シ千八百七十九年ニSchloesser氏ノ獨譯セルモノガアツテコハ易ク手ニ入レルコトガ出來ル。Espinas, Die Thierischen Gesellschaften.)而シテ氏ノ分類ハ其後試ミラレタル多クノ分類ノ基礎トナツテ居ル併シエスピナ氏ノ分類ハ普通ノ社會學書ニモ時々紹介サレテ居ツテ可也ヨク學者間ニ知ラレテ居ルト思フカラ、(例ヘバSchäffle Bau und Leben des Socialen Körper, I. Bd., S. 268—279. Zenker, Die Gesellschaft, I. Bd. S. 15—29.)ソレデ茲ニハコセンチニ氏ガ昨年公ニシタル新著「社會學」ノ内ニ論ズルモノヲ紹介シテ置ク。

コセンチニ氏ハ動物社會ノ主要ナルモノヲ三種ノ類型ニ大別シ、一ヲ無頓着ナル社會 Le Società indifferenti ト稱シ、二ヲ相互的社會 Le Società reciproche 三ヲ永續的社會 Le Società permonenti ト稱シテ居ル。

無頓着ナル社會トハ、同種ノ動物相簇集シテ單一ナル抵抗的社會團體ヲ作ルガ、併シ其内部ニアリテハ各々自己ノ絶對的獨立ヲ保持シ、他ノ利害ニ對シテハ全ク

無頓着ナルモノデアル。何カノ必要起ル場合ニハ動物ハ相集合シ、而シテ其目的ノ達セラルヽヤ又直チニ分散スルハ吾人ノ日常目擊スル處デアル。此類型ノ動物社會ノ實例トシテ著シキモノハ、移住的魚類ノ社會（鮭、鱈魚鯡等）移住的鳥類ノ社會（燕鳩等）鼠ノ社會等デアル。

相互的社會ハ無頓着ナル社會ト同樣ナル事情ノ下ニ成立シ、其團結ハ一時的ノモノデアル。併シ此種ノ社會ニ於テハ各動物ハ其ノ力及ビ驗智ヲ合セ、一定ノ身體的竝ニ道德的行動ヲ他ヨリ要求スレバ、又己モ之ヲ他ニ與ヘル。茲ニハ印象（イムプレシヨン）ノ直接的ナル又斷ヘザル交換ガ行ハルヽノデアル、併シ團結ノ持續ヲ確保スル永續的紐帶ハ存在セズ、其同行動ノ終リタル後ハ各々自由行動ヲトルノデアル。此種ノ社會ノ適例ハ鶴、狼、海狸 Philataerns Sociais 等ノ社會ニ於テ見ラレルノデアル。

永續的社會ニ於テハ、團結ハ永續的トナリ、之ヲ合成スル各箇體ハ强固ナル紐帶ニヨリテ結ビ付ケラレ、相互ニ補助シ、又各自ニ於テ社會ノ保護防衞ニ勤メル、茲ニ分業ハ確立シテ各所屬者ニ自己特有ノ能力ヲ發展セシムル。此クテ團結ハ同質的一全體、眞實ナル社會團體ヲ成シ、各家族ハ一ノ機關トナリ、各箇體ハ一員トナル。家

族及ビ箇體ハ死滅スルカ、併シ彼等ハ其ノ死滅スル前ニ子ヲ產ミ、之ニ共同行動ヲ敎ヘ、彼等ノ地位ヲ繼ガシメル。サレバ無頓着ナル社會及ビ相互的社會ニ於テハ箇體ハ團結ノ必須的基礎デアルガ、永續的社會ニ於テハ箇體及ビ家族ハ次等的機能ヲ營ムニ過ギズシテ、茲ニ、必須缺ク可カラザルモノハ其團結ノ創設者ノ子孫ノ持續デアル。永續的社會ノ例トシテハ左ノ如キモノヲ擧グルコトガ出來ル。卽チ白嘴鴉、鸚鵡、單蹄動物、反芻動物、猿猴等ノ社會デアル。殊ニ似人猿ノ社會ハ人類ノ家族ニ最モ近ヅイテ居ル。無脊椎動物ニアリテハ諸種ノ蜂及ビ蟻ノ社會ヲ擧グルコトガ出來ル。此等諸種ノ社會ノ外ニ苔蟲類、海鞘類、水螅類、管狀水母類、海綿類、珊瑚蟲類、蠕蟲類等ノ群(コロニヤ)ガアル。La Sociologia, p. 36—37. 以上述ベシコセンチニ氏ノ動物社會ノ分類ニ比較對照シテビユヒヤー氏ノ前定ヲ考察スルト、ビユ氏ノ前定ガ嚴密ニ適合スルハ第一種ノ無頓着ナル社會デアル。更ニ第二種ノ相互的社會ニモ大體上適合スルト見做スコトガ出來ル、併シ第三種ノ永續的社會ニハビユ氏ノ前定ハ全然適合シナイ、サレバ若シコセンチニ氏ノ分類(但シ第三種ノ社會類型ハ多クノ動物社會學者ノ認ムルモノナレバ、之ヲ單ニユ氏ノ私見ト見做スコトハ出來ナイノデアル)ヲ正當ト認ムル場合ニハ、ビユ氏ノ前定ハ甚ダ不完全ナルモノトナルノデアル。殊

ニ人類ニ最モ近キ似人猿ノ生活ガ第三種ノ永續的社會ヲナスモノト認ムルトキハ、ビユ氏ノ前定ハ不完全ノ度ヲ越ヘテ謬見トナル恐レガアルノデアル。蓋シ原始人ノ生活ハ動物ノ生活中似人猿ノ生活ニ最モヨク類似セルモノト考ヘヲバナラナイカラデアル、併シコセンチニ氏ノ永續的社會ト稱スルモノハ、隨分範圍ノ廣キ觀念ニシテ、其內ニハ種々ナル差異ヲ包含シテ居ルカラ、余輩ハ更ニ特ニ似人猿ノ生活ニ就テ一層詳シク研究シ、之ニ照ラシテビユ氏ノ前定ヲ吟味スルコトガ必要デアルト思フ。今似人猿ハ動物學上大猖々、猩々、黑猩々及ビ手長猿ノ四種ニ分類サレテ居ル此等四種ノ似人猿ノ生活ニ就テハ未ダヨク研究サレテ居ラナイ併シ普通ニ此問題ニ就テ「オーソリチー」ト認メラレテ居ルハブレーム、ハルトマン、エスピナ等（ブレーム及ビエスピナノ著書ハ前ニ揭ゲテ置イタカラ茲ニハ唯ハルトマンノ著作ノミナアゲテ置ク。Hartmann, Les Singes anthropoides, et leur organisation comparée) celle de l'homme.）ノ著作デアルカラ、此等ノ著作ニヨリテ研究シテ見ヨウト思フガ、幸ヒニ伊太利ノ社會學者スキャッタレルラ氏及ビグロプパリ氏ハ既ニ之ヲ試ミラレテ居ル、(Schiattarella, note e problemi di filosofia Contemporanea, 1891, L'Antropoide e L'Autraliano. Groppali, Elementi di Sociologia, 1905, Lezione II.)而シテグロッパリ氏ノ叙說ハ簡單ニシテ要ヲ得テ居ルカラ茲ニハ

同氏ノ叙説ノ大要ヲ述ベテ置ク（グロツパリノ著書ハ余五年前社會學專攻ノ學生ノ爲メ伊太利語社會學書ヲ講讀セシ際使用セシモノナルガ、其節學生ノ一人タリシ文學士高田保馬氏其後之ヲ邦語ニ譯セラレ、既ニ原著者ヨリ許可モ得ラレタレバ近々ニ出版セラルヽコトヽナツテ居ル。サレバ似人猿ノ社會的生活ニ就テヤ、組織立テル智識ヲ求メラルヽ人々ニシテ、グロツパリ氏ノ原著書ヲ閲讀スル便宜ヲ有セザル人々ハ右ノ譯書ノ現ハレタル際之ヲ一讀セラレンコトヲ希望ス。）

四種ノ似人猿ノ中ニテ社會學的ニ考察スレバ、最モ進歩セルモノハ黑猩々デアル。大猩々ハ一夫多妻的ニシテ、猩々ハ唯交接期間ニ於テノミ雌雄共住シ、手長猿ハ多夫一妻的デアルガ、黑猩々ハ一夫一婦的デアル。サレバ彼等ニアリテハ家族的感情ハ殆ンド人類ニ於ケル程發達シ稍々强固ナル又有機的ナル家族ヲナシ、而シテ共同始源ヲ有スル多數ノ家族ヨリ成立スル無數ノ部族ヲナシテ居ル、

猩々及ビ手長猿ハ一般ニ家屋ヲ造ラナイガ、大猩々及ビ黑猩々ハ之ヲ造ル殊ニ黑猩々ハ大猩々ヨリモ一層巧妙ニ之ヲ造ルノデアル。黑猩々ハ洞穴ノ中ニモ住スルガ、又立木ノ枝ヲ曲ゲ、之ヲ組ミ合セ、其上ヲ枯草、小枝、樹葉等ヲ以テ被フテ屋根ヲ造リ、其下ニ一家族相集リテ住居スル。而シテ父ナル黑猩々ハ常ニ其家屋ノ近傍ヲ去ラズシテ之ヲ守リ、若シ敵ノ襲ヒ來ランニハ、迅速猛烈ニ之ヲ防グ。但シ彼等ハ彼等自身ガ攻擊セラルヽニ非ラズバ敢テ他ト鬪爭シナイ。併シ其鬪爭スル場合ニハ

甚ダ猛烈デアル。而シテ此場合ニハ妻子共ニ之ニ加ハリ、石、樹枝其他手當リ次第ノ物ヲ敵ニ投ゲツケ、其勢當ル可カラザル狀體ヲ呈ス。

黑猩々ハ一般ニ食事ヲ共ニスル。好ンデ植物性食物ヲトルガ又動物性食物ヲモ忌マナイ。彼等ハ道具ノ使用ニ就テモ可也進步シテ居ル。ダーウインノ云フ處ニヨレバ彼等ハ石及ビ棒ヲ以テ攻擊竝ニ防禦ノ具トナシ、又果實ヲ打チ落シ、木ヲ割ル等ノ手段ニ用ユルニ彼等ハ一種ノ傘ノ如キモノヲ造リテ、雨又ハ日光ヲ防グニ用ヒ、又夜間疲レタル足ヲ息メル爲メニ一種ノ寢臺ヲ作ルコトモ知ツテ居ル。

更ニ似人猿ノ間ニハ神、咒物、靈魂不滅等ノ信仰及ビ禮拜等ノ宗教的現象ノ存在スルヲ推察シ得ル幾多ノ事實ガアル。

終リニブレーム氏ニ從フテ、彼等ノ間ニ於ケル權力關係ノ一般ヲ述ベンニ、似人猿ノ大部分ハ團體ヲナシテ生活シ、各團體ハ多少一定セル領域ヲ有ツテ居ル。而シテ彼等ガ一定ノ領域ヲ選定シタル時、茲ニ彼等特有ノ生活ハ始マル。一團體中ノ最モ强キ雄ハ其首領トナリ、指揮者トナル。併シコハ選擧ニヨルノデハナク、爭鬪ノ結果デアル。彼等ノ間ニアリテモ、人類ニ於ケルト同ジク、勝利ハ最モ長キ齒ト最モ强

キ腕ヲ有スルモノヽ手ニ歸スル。權力ハ最モ强キモノヽ手ニ收メラレ、最モ賢キモノトハ最モ長キ齒ヲ有スルモノデアル。首領ハ絶對的服從ヲ要求シ、又常ニ之ヲ獲得セヲバ已マヌ「彼ハ團體內ノ女性ヲ自由ニシ、又初夜ノ權ヲ有ツテ居ル。彼ハ團體ノ「パトリアルカ」トシテ團體ヲ支配シ又之ヲ保護スル。一團體ノ所屬者ノ數ガアマリニ增加スル場合ニハ、其首領ニ對抗スル力アルト信ズル或雄ガ其一部分ヲ率ヒテ分裂スル。而シテ此場合ニハ此新團體ノ支配權ニ對シテ新シキ爭鬪ハ始マル。首領ハヨク其任務ヲ盡クシ、團體ノ安全ヲ圖ル爲ニ常ニ警戒ヲ怠ラナイ。而シテ彼ニ對スル團體從屬者ノ尊敬ハ彼ノ自尊心ヲ發達セシメ、彼ヲシテ一種優勝ノ風ヲ具ヘシムルノデアル。以上グロツバリ氏ノ敍說ニヨリテ似人猿ノ生活ノ概觀ヲ述べタノデアルガ、余ハ此敍說ガ果シテヨク似人猿ノ生活ノ實相ヲ傳ヘタルモノデアルヤ否ヤヲ判斷スルコトガ出來ナイ。自カラ嘗テ彼等ノ生活ヲ實際ニ觀察シタルコトナク、又今後モ斯ル機會ヲ得ル見込ノナイモノハ、唯專門家ノ云フ處ニ從フヨリ外ニ途ハナイ。而シテ今若シ右ノ敍說ヲ承認スルニ於テハビユヒヤー氏ノ前定ノ價値ハ甚ダ疑ハシキモノトナルノデアル。元來動物生活ノ觀察ニヨリテ、原始人

研究ノ前定ヲ立テントスルニ當テ、最モ重要視ス可キモノハ人類ニ最モ近キ似人猿ノ生活デアラネバナラヌ。而シテ彼等ハ一般ニ社會的生活ヲ營ミ、殊ニ黑猩々ノ如キハ上ニ述ベシガ如キ狀體ヲ呈スルモノトセバ、原始人ノ生活モヤハリ之ニ類スルモノト認メネバナラヌ。假令黑猩々ホドノ進步ヲナシテ居ラナカツタトスルモ尙ホ之ヲ去ルコトアマリ遠カラザルモノト認メネバナラナイト思フ。サレバ今日ノ社會學者ハ一般ニ人類ハ始メヨリ社會ヲナシテ生活スルモノ、否ナ其ノ始メヨリ社會的生活ヲ營ンデ居ツタト云フコトガ、實ニ其生存發達ノ根本的必要條件デアルト說イテ居ルノデアル。但シ米國ノウオード氏ノ如キ、又伊太利ノロリア氏ノ如キ大家ニシテ、此通說ヲ認メナイ人々モアルガ、(Ward, Pure Sociology, 1903. Loria, Le Sintesi Economiche, 1903) 併シ今日デハカヽル人々ハ寧ロ例外ト見做サレルホド少數デアル。

要スルニピユヒヤー氏ノ前定ハ人類ニ最モ近キ似人猿ノ生活ノ觀察ヲ基礎トセズシテ、鳥群ヤ野獸群ノ生活ノ觀察ヲ基礎トスルモノニシテ、動物生活ノ觀察ヨリ前定ヲ立テントスルモノトシテハ、先ヅ其方法ニ於テ誤ツテ居ルト思ハレルノ

デアル。サレバ余ハ近頃ニ至ルマデハ氏ノ個人的食物探求説ハ全然承認シナカツタノデアル。然ルニ近頃余ハ氏ノ説ニ大ナル眞理ヲ認ムル必要ヲ感ジテ來タ。之レヨリ少シク其理由ヲ述ベ、ビユ氏ノ個人的食物探求説ノ新シキ解釋ヲ試ミルコトトスル。

夫レ同類相親ム自然ノ情ガ、人類ヲシテ社會ヲナスニ至ラシムル深奥ナル一勢力デアルコトハ疑フ可カラザル事實デアルト思フ。併シ一派ノ社會學者ノ如ク、アマリニ之ヲ偏重スルハ穩當デナイ。余ハ此情ノ外ニ他ノ根本的勢力ヲモ認ムルコトガ必要デアルト思フ。殊ニ單純ナル團結(アツソシエーション)ヨリ進ンデ組織アル社會團體トナルニハ種々ナル原因ノ加ハルコトガ必要デアル。而シテ此等ノ原因ノ中ニテ一般ニ最モ重要視サルヽモノハ食物ノ獲得デアル。殊ニ經濟學者又ハ經濟的方面ヲ偏重スル社會學者ハ、之ヲ以テ最モ根本的ナル社會形成力ト見做シテ居ル。而シテ食物獲得ノ必要上協働セザルヲ得ザルニ至ルニ非ラズバ、人類ハ社會ヲ成サズシテ生活スルモノデアルト云フ意味ヲ暗ニ其内ニ含マセテ居ル。サキニ掲ゲシロリア氏ノ新著ニハ此主意ハ殊ニ明白ニ説カレテ居ル。然ルニ人類發源ノ地ハ天產物ノ豐富

ナル地方デアツタト云フコトハ、今ヤ一般ニ承認サレテ居ルノデアル。サレバ食物獲得ノ必要上協働スルコトガ、原始人類ヲシテ社會ヲ成サシムル最モ根本的ナル或ハ殆ンド唯一ノ原因デアルト見ル以上ハ、天產物豐富ニシテ食物獲得ノ困難ナラザル地方ニ發現セル原始人ハ、始メハ社會ヲナシテ居ラナカツタト論結スルハ當然デアル。卽チ假令血統關係ヤ又ハ同類相親ム自然ノ情ニヨリテ群ヲナシテ居ツテモ、食物ガ協働ヲ待タズシテ獲得セラル、以上ハ、社會團體ハ成立シナイト見ルハ當然ナル論結デアル。是レ恐クハビユヒヤー氏ノ個人的食物探求說ニ含マレテ居ル最モ根本的ナル論理的前定デアラウト思フ。併シ氏ハ例ノ歸納的ヲ衒ラフ爲メニ、之ヲ動物生活ノ觀察ニ基ヅケル前定ノ形ニテ表ハサレタノデアラウト察セラル。

今一方ニ於テ人類發源ノ地ハ天產物ノ豐富ナル地方デアツタト假定シ、他方ニ於テハ食物獲得ノ必要上協働スルコトガ社會形成ノ根本的原因デアツタト假定スル以上ハ、動物生活ノ觀察如何ニ係ラズ、個人的食物探求說ハ當然引キ出サル可キ論結デアル。而シテ人類發源ノ地ハ天產物豐富ナル地方デアツタト云フコトハ

種々ノ方面ヨリ考察シテ承認セザルヲ得ザルモノデアルカラ、余モ此假定ハ是認スルノデアル。併シ食物獲得ノ必要上協働スルト云フコトハ、果シテ人類ヲシテ社會ヲナサシムル根本的原因デアツタデアラウカ。若シ之ヲ是認スルニ於テハ、動物生活ノ如何ニ係ラズ、吾人ハ論理上個人的食物探求說ヲ承認セザルヲ得ナイノデアル。煎ジツムレバ個人的食物探求說ノ眞ノ當否ハ食物獲得ノ必要上協働スルコトガ、社會形成ノ根本的原因デアルヤ否ヤニヨリテ決定セラルヽコトヽナルノデアル。

サテサキニ述ベシ似人猿ノ生活ニ就テ、ヨク注意シテ考察スルト、彼等ヲシテ稍々强固ナル社會團體ヲ成サシムル根本的原因ハ、食物獲得ノ爲メニスル協働ノ必要ニ非ラズシテ、外敵ノ侵害ニ對シテ防禦スル事デアルト思ハレルノデアル。生存保持ノ爲メニ食物獲得ノ必要ナルコトハ云フマデモナイ。併シ之レト同時ニ外敵ノ侵害ヲ防グト云フコトガ均シク必要デアル。何レヲ缺イテモ生存ノ保持ハ不可能トナルノデアル。サレバ天產物ガ豐富ニシテ、食物ハ易ク獲得セラレ、之レガ爲メニ協働スル必要ガナイトシテモ、外敵ノ侵害ヲ防グ必要上相團結スルノ必要ガア

ルノデアル。カノ猛獸ガ群ヲナサズシテ、柔和ナル動物ガ群ヲナシテ居ルノハ、主トシテ此原因ニ基ヅクモノデアルト思ハレル。而シテ團結ガ防衞ノ爲メニ如何ニ有效ナルカハ、猛獸ガ柔和ナル動物ヲ襲ハントスルニ當テハ、決シテ彼等ガ群ヲナス場合ニ之ヲ敢テスルノデハナク、何カノ事故ニヨリテ群ヲハヅレル機會ヲ窺フテ之ヲ襲フト云ハル、コトニヨリテモ察セラル、ノデアル。更ニ動物ガ、食物獲得ノ爲メニ協働スル必要ナクシテ、而モ敵ノ侵害ヲ防グ爲メニヤ、組織立テル團體ヲナスコトハ、カノ水田ニ下レル雁ノ一群ガ、各々個人的ニ食物ヲ探求シツ、而モ一定ノ見張番ヲ置テ居ルコトヲ見テモ察セラル、ノデアル。社會學者ガ動物界ニ於テ協働團結ノ存在スルコトヲ示ス實例トシテ列擧スル事實ヲ一々吟味シテ見ルト、其大部分ハ直接ニハ食物獲得ヲ目的トスルモノデナク、外敵ノ侵害ヲ防グコトヲ目的トスルモノデアルコトヲ見ルノデアル。

サレバ余ハ動物界ニ於テハ、社會的團結、殊ニヤ、組織アル團體ハ、食物獲得ノ爲メヨリハ寧ロ主トシテ外敵ノ侵害ヲ防グタメニ成立スルモノデアルト考ヘ、而シテ之レヨリ推シテ、天產物ノ豐富ナル地方ニ發現セル原始人ニ於テモ、假令食物獲

得ノ爲メニ協働スル必要ナクモ、外敵ノ侵害ヲ防グタメニ、ヤハリ自カラ稍々組織アル團體ガ成立シ、而シテ此團體ハ「ビユヒヤー」氏ノ考フルガ如ク「個人ノ生存ヲ輕クスル或ハ助クル」コトナカリシモノデハナク、常ニ個人ノ生存ヲ確保スルニ於テ食物ノ獲得ト同樣ニ必要ナリシモノ、否ナ或場合ニハ食物ノ獲得ヨリモ一層重要ナリシモノデアツタト考ヘルノデアル。

併シ余ガ以上述ベシ如ク、社會形成ノ根本的勢力トシテ、外敵ノ侵害ヲ防グ必要ヲ重要視スル主意ハ、今日同樣ナル說ヲ唱ヘテ居ル人々ノ主意ト、種々ノ點ニ於テ異ナツテ居ルカラ、尙ホ少シク辯明シテ置カウト思フ。今日マデノ處デ、此思想ヲ最モ極端マデ推シ進メタルハ、Anthroposoziologie ノ創說者ノ一人ト見做サル、獨逸ノアムモン氏デアラウト思フ。氏ハ其好著作 Ammon, Die Gesellschaftsordnung und ihre natürlichen Grundlagen, 1900 ノ中ニ左ノ如ク云ハレテ居ル。

最初ニ動物ヲシテ群 (Gruppe, Schwärme, oder Herden) ニ結合スルニ至ラシメタル本能ハ何ンデアツタカ。而シテ此事タルヤ群ニ結合スルコト箇體間ニ親密ナル關係ノ形成サレ得ル前ニ先ヅ起ラヌバナラヌ。吾人ハ此問題ヲ解決スル鍵ヲ左ノ觀念ニ於

テ發見スルノデアル。卽チ社會生活ハ其不完全ナル始メニ於テ、既ニ一ノ實利的組織 Eine Nützlichkeitseinrichtung デアツタモノデナケレバナラヌト云フ觀念デアル。若シ同ジ種ノ箇體ノ多數相集マルコトガ、ヨク敵ニ對スル彼等ノ防衞ヲ確保シタナラバ、假令彼等ハ之ヲ意識セザルモ、ダーウインノ自然陶汰ノ法則ニ從ガヒ、社會生活ハ漸次ニ發達スルコトガ出來タノデアル。蓋シ其防衞本能ガ同種ノモノト相結合スル方向ニ變易スル箇體ハ、之ニヨリテヨク其生存ヲ保持シ、之ニ反シテ孤立獨棲スルモノハ滅亡セヲバナラヌカラデアル。S. 18.

社會的(他愛的)本能ハ防衞本能ノ枝ヨリ發生スル。社會的本能ハ、サキニ述ベシ如ク、防衞ハ多數ノ箇體相結合シテ共同ニ之ヲ行ナフ場合ニ一層效力ヲ增スト云フコトヲ前定スルモノデアル。此前定ナクバ吾人ハ全ク社會的生活ナルモノヲ考ヘルコトガ出來ナイ。蓋シ之レナクバ社會的生活ノ濫觴ハ生起スルコトガ出來ナイカラデアル。S. 45.

併シ此ノ如ク防衞ヲ以テ、社會形成ノ殆ンド唯一ノ原因ト見ルニ於テハ、種々ナル非難ノ起ルハ當然ニシテ、ワクスウエラー氏ノ如キハ、之ニ反對シテ社會的本能

ハ防衞本能ヨリ派生セルモノデナク、夫レ自身獨立ナル本能デアルコトヲ證明スル爲メニ、數多ノ動物生活ノ事實ヲ擧ゲテ居ル。(Waxweiller, Esguisse d'une Sociologie, 1906, p. 57—59) 余ハ勿論アムモン氏ノ云フガ如キ意味ニ於テ、防衞ノ必要ヲ社會形成ノ根本的原因デアルト云フノデハナイ。余ハワクスウエラー氏ノ主張スル「社會的親和力」或ハ「社會的牽引力」L'affinite Sociale ト稱ス可キ一種ノ傾向、卽チ同類相親ム自然ノ性情ノ存在スルコトヲ承認スルノデアル。而シテカヽル自然ノ性情ガ社會形成ニ於ケル一ノ深奥ナル勢力デアルコトヲ認メルノデアル。而モカヽル性情ハ決シテ唯夫レ自身ノ力ノミニテ組織アル社會團體ヲ發生スルモノデナイト考ヘル。カヽル性情ハ唯夫レ自身ノ力ノミニテハ單純ナル團結ヲ發生スルニ止マリ、此團結ガ組織アル團體トナルニハ更ニ他ノ原因ガ必要デアルト思フ。而シテ此等ノ原因ノ中ニテ最モ原本的ナルモノハ防衞ノ必要デアルト考ヘルノデアル。サレバ余ノ說ク處ハ、未ダ何人モ充分ニ開展シナカツタ一ノ新見解デアルノデアル。

更ニ余ノ見解ハ、諸家ノ說ク處ト異ナレル一ノ重要ナル觀念ヲ含ンデ居ル。一般ニ社會學者ハ人類ハ始メヨリ社會ヲナシテ居ツタト云ヘバ、直チニ食物ノ獲得ニ

於テ協働シ、共同的生產ヲ營ミ、又其生產物ヲ共同的ニ消費シテ居ツタモノヲ解シテ居ル。是レ今日モ汎ク行ハレテ居ル原始共產說ノ說ク處デアル。然ルニ之ニ反シテビユヒヤー氏ノ如ク、原始人ハ食物獲得ノ爲メニ協働シテ居ラナカツタト見ル人々ハ、又直チニ原始人ハ社會ヲナシテ居ラナカツタト解シテ居ル。余ハ此等一種ノ學說ハ何レモ眞理ノ一片ヲ包藏シテ居ルカ、其儘ニテハ謬見デアルト考ヘルノデアル。余ハ、之レマデ述べ來リシ處ニヨリテ明ニセル如ク、原始人ハ食物獲得ノ爲メニハ協働スル必要ハナカツタカラ、從フテ此方面ヨリシテハ組織アル社會團體ハ成立シナカツタガ、併シ外敵ニ對シテ防衞スル必要上ヨリシテ自カラ組織アル社會團體ハ發生シタト考ヘルノデアル。要スルニ余ハ、原始人ハ防衞ノ必要上ヨリヤ、組織アル社會團體ヲ作リナガラ、其團體內ニ於テハ大體上個人的探求ニヨリテ食物ヲ獲得シ、又個人的ニ之ヲ消費シテ居ツタト見ルノデアル。但シ鳥群ニ於テ吾人ノ日々目擊スルガ如ク、其內ノ一ガ食物ヲ發見スル場合ニ、一種ノ鳴聲ヲ發シテ他ヲ呼ビヨセルト云フ程ノ相互補助ガ、食物ノ獲得ニ於テモ行ハレテ居ツタコトハ、動物生活ノ觀察ニヨルモ、推察シ得ラルヽコトデアル。恐クハ夫レ以上ノ相互

補助ガ行ハレテ居ツタカモ知レナイ。是レモ動物生活ノ觀察ニヨリテ推察シ得ラル、ノデアル。例ヘバ或水鳥ハ列ヲナシテ魚ヲ一隅ニ追ヒ込ミ、相互ニ其捕獲ノ便ヲ圖ルガ如キモノデアル。ビユヒヤー氏ノ個人的食物探求說ハ是レ程ノ相互補助ヲモ認メナイ樣ニ說カレテ居ルノハ、ヤハリ其一缺點デアルト思フ。トニカク余ハ以上述ベシガ如キ新シキ意味ニテ、ビユヒヤー氏ノ個人的食物探求說ヲ解釋シ、之ヲ以テ社會學上甚ダ重要ナル一學說トナサントスルノデアル。尙ホ余ハ余ノ見解ヲ確立スル爲メニ、玆ニ生物進化論上ノ一新說、卽チ相互補助ヲ以テ一ノ自然理法ニシテ進化ノ主要因素デアルト解シ、而シテ動物界及ビ人類ノ進步的發達ヲ導ケルモノハ此理法ニシテ、生存競爭ノ理法ヨリモ一層重要ナルモノデアルト主張スル說ニ就イテ論述スル考ヘデアツタガ、アマリニ本論文ヲ長クスル恐レアルヲ以テ省テ置ク。但シ此新說ハロシヤノ動物學者ケスラー氏ニヨリテ始メテ唱ヘラレ、其後佛國ノラヌサン氏モ氏トハ獨立ニ之ヲ唱ヘ出シタガ、併シ之ヲ詳シク論述シタルハクロポトキン氏デアル。サレバ詳シキコトハ同氏ノ著作、Kropotkin mutual Aids, 1907...L'ntri aide un facteur de l' Évolution 1906 ヲ見ラレヨ。

サテ以上述べ來リシ處ニヨリテ、余ハビユヒヤー氏ノ說ノ前定ハ、總テ科學的研究ニ於テ前定ヲ立ツルニ當テ用ユ可キ方法ノ上ヨリ見テ、又其內容ノ上ヨリ見テ、科學的前定トシテ如何程ノ價値アルモノデアルカヲ究明シタト信ズルガ、次ニ氏ハ其前定ヲ土俗學的事實ニ就テ徵驗シ、之ヲ確立セントスル企テニ於テ如何程成功シテ居ルカヲ吟味シテ見ヤウト思フ。

ビユヒヤー氏ハ如何ナル土俗學的事實ヲ以テ其前定ヲ徵驗セントシタルカハ、本論文第一節ニ於テ敍說シテ置イタガ、余ハ始メ其等ノ事實ニ就テ一々ビユヒヤー氏ノ徵驗ヲ吟味スル考ヘデアツタ。殊ニ氏ガ自然人民ノ心理的形質ニ就テ論述セラルヽ點ニ關シテハ、氏ノ著作ノ公ニサレシ以後發表サレタル諸家ノ自然人民ノ心理ニ關スル有益ナル研究(Vier-kandt, Schurts, Wundt, Krüger, Stoll, Boas, Thomas, Gennep, Durkheim, Hubert, Mauss, Levy—Brühl, Ruttoetc.)ヲ參考シテ論評スル考ヘデアツタ。然ルニ本論文ガアマリニ長クナリタルタメ、今回ハ唯氏ノ徵驗ニ於テ最モ重要ナルモノト、氏ノ門下生レヴインスキー氏ノ見做シテ居ル處ノ男女ノ經濟的分割ニ就テ論究スルニ止メテ置ク。

サキニ述ベシ如ク、ビユ氏ハ其前定ヨリ見テ、男女ノ經濟的分割ヲ解釋シ、之ヲ以テ個人的食物探求時代ノ殘存物ト見做シ、而シテ之レニヨリテ其前定ヲ徵驗シタト考ヘラレテ居ルノデアル。併シ氏ハ果シテヨク其目的ヲ達シテ居ルデアラウカ。氏ノ解釋ニ對スルウオドン氏ヤゾムロ氏ノ批評ハ前節ニ略述シテ置イタカラ、讀者諸君ハ既ニビユ氏ノ解釋ニ對シテ如何ナル非難ガ起リ得ルカ。又此經濟的分割ト云フ事ハ如何ニ種々ナル意味ニ解釋シ得ラルヽカヲ學バレタデアラフト思フ。之ヨリ少シク愚見ヲ述ブルコトヽスル。

男女ノ經濟的分割ニ就テ、先ヅ生產ノ方面ヲ考察スルニ、現代文明國ニ於テハ男子ハ生產ニ從ヒ、女子ハ消費ヲ司ルト云フコトハ一般ノ狀態デアル。但シ近來女子開放運動ノ發達ニヨリテ、生產業ニ從フ女子ノ數ハ漸ク增加シテ居ルガ、一般ノ狀態ニ於テハ尙ホ男子ハ生產ニ從ヒ、女子ハ消費整理ノ任務ニ當ツテ居ル。然ルニ文化發展ノ階段ヲ下ルニ從フテ女子モ生產ニ從事スル傾向ハ增大シ、而シテ男子ト其生產範域ヲ異ニスルコトヲ見ルノデアル。更ニ土俗學的研究ニヨリ現存ノ自然人民ニ就テ觀察スルニ此ノ男女ノ生產的分割ト云フ現象ハ汎ク一般ニ行ハレテ

居ルコトヲ見ルノデアル。是ニ於テカ問題ハ起ツテクル。卽チ此現象ハ最モ原始的ナルモノデアルヤ否ヤト云フ問題デアル。而シテ此問題ニ就テハ理論上三種ノ解決ヲ下スコトガ出來ル第一ハ最モ原始的ナルモノト見ルコトニシテ、第二ハ一層原始的ナル現象ノ殘存物ト見ルコト、第三ハ一ノ發達的現象、卽チ原始經濟ノ發達スルニ伴ナフテ發現シ來レルモノト見ルコトデアル。サキニ述ベシ如クモズスコウスキー氏ノ說ハ第一ノ見解ヲ代表スルモノニシテ、氏ハ氏ノ最モ原始的ナル經濟階段ト見ル處ノ掠奪經濟ニ於テハ、經濟單位ハ男子經濟ト女子經濟ノ二種ニ別レテ居ツタト考ヘルノデアル。第二ノ見解ハ卽チビユヒヤー氏ノ主張スルモノニシテ、第三ノ見解ハウオドン氏及ビゾムロ氏等ノ唱フルモノデアル。（詳クハ第二節ニ見ラレヨ）然ラバ今之ヲ土俗學的研究ニ徵スレバ、何レノ見解ガ最モ穩當ト見做サル可キカ。

今之ヲ決定セントスルニ當テ、吾人ノ注意ス可キ最モ重要ナルコトハ、此ノ男女ノ生產的分割ト云フ現象ハ比較的ニ原始的ナル自然人民ニ於ケルホド著シク現ハレテ居ルヤ否ヤト云フ點デアル。モズスコウスキー氏ハ自カラパプア人ニ就テ直接觀察シタル處ニヨリ、彼等ノ間ニ於テハ原始的ナル部族ホド著シク此現象ヲ

現ハサムコトヲ說キ、又、男女間ノ嚴格ナル經濟的分離ハ、經濟的發達ノ進步スルニ從ガヒ自カラ其重要ヲ減ズルガ、併シ速カニ全然消失スルモノデナイ」（前節ニ引用セル氏ノ著書P.23）ト云ハレテ居ル。然ルニゾムロ氏ハ之レニ反シテビユヒヤー氏ハ種々ナル自然人民間ニ存在スル男女ノ食時及ビ勞働範域ノ分離ヲ以テ嘗テ存在セシ個人的欲望充足階段ノ殘存物ト見做シテ居ル。併シ此等ノ事實ガカヽル階段ノ殘存物ト見做サレ得ルモノナランニハ、彼等ハ正シク最モ原始的ナル種族、卽チ原始狀態ニ最モ近ヅケル種族ニ於テ、最モ明白ニ現ハレテ居ラネバナラヌ。然ルニ最モ原始的ナル人民ガ毫モ其痕跡ヲ示サヾルニ、ヤヽ高等ナル階段ノ制度ヲ、未ダ何物ニヨリテモ證明サレザル假設的原始階段ノ殘存物ト見ルハ甚ダ大膽デアル、殊ニカヽル制度ハ幾等モ他ノ方法ニヨリテ說明サレ得ル場合ニ於テ然リデアル」（前節ニ引用セル氏ノ著書P.171）ト云ハレテ居ル。ゾムロ氏ハ此語中ニハ消費ノ分離ヲモ併セテ論ゼラレテ居ルガ、之ニ就テハ後ニ特ニ論究スルカラ、茲ニハ唯生產ノ分離ノミニ就テ考察センニ、今特ニ生產ノ分離ニ就テ考察スル場合ニハゾムロ氏ノ云フ處ハ正確デナイト思ハレル。氏自身ガ最モ原始的ナルモノトシテ研究シテ居ル、自然人民ニ就テ考フルモ、其ノ

多數ニ於テ男女ノ生產的分離ノ行ハレテ居ルコトヲ見ルノデアル、尙ホ此點ニ就テ、余ガ自然人民ノ文化ヲ考究スル場合ニ、常ニ最モ有益ナル參考書ノ一トシテ使用スルシュルツ氏ノ「文化原史」Schurtz, Urgeschichte der Kultur, 1900 ヲ調ラブルニ、同氏モ男子經濟ト女子經濟ノ區別、或ハ同氏ノ二重經濟 Doppelwirthschaft ト稱セラルヽモノハ、極圈地域（ポーラールゲビーテ）ニ於テノ外ハ「何處ニモ存在スル」モノト認メラレテ居ルコトヲ見ルノデアル。（S. 232—235）但シ極圈地域ニ於テ此經濟的分離ノ存在セザルハ、是レ此地域ニ於テハ植物ハ殆ンド生育シナイカラデアル。併シ氏ハモズスコウスキー氏ノ如ク、之ヲ以テ既ニ消滅セル最モ原始的ナル時代ノ經濟組織ト見ラルヽヤ否ヤハ明瞭デナイ。トニカク余ハ男女ノ生產的分離ハ現存ノ自然人民ニアリテハ、其ノ最モ原始的ナルモノニ於テモ、一般ニ存在スルモノト認メネバナラヌト思フ。然ラバ之レヨリ推シテ、モズスコウスキー氏ノ見解ヲ承認シ、既ニ消滅セル絕對的ニ原始的ナル時代ニ於テモ存在セルモノ、卽チ最モ原始的ナル經濟的組織ト見做ス可キカト云フニ、余ハ此ノ見解ハ穩當デナカラウト考ヘルノデアル。現存ノ原始人民中最モ原始的ノモノトシテ何人モ認メテ居ル處ノ、カノ中央亞弗利加ノ森林矮人 Waldpygmäe 南阿弗利加ノ「ブシュマン」人、北米カリフォルニア州ノセリ、インヂ

アン人等ニ就テ見ルニ、男子ハ狩獵ヲ專ラトシ、女子ハ草根木實ノ採集ニ從ガヒ、大體上生產的分離ハ存在シテ居ルガ、併シ其分離ハアマリ嚴格デハナイノデアル。女子モ自カラ捕捉シ得ル小動物ハ之ヲ捕捉シテ食用ニ供シテ居ル。サレバシユルツ氏モ此等ノ人民ニアリテハ原始二重經濟ハアマリ明瞭デナイト云ハレテ居ル。更ニモズスコウスキー氏ガ男女ノ經濟的分離ガ尙ホ比較的ニ嚴格ニ行ハレテ居ルト云ハルヽノイ、グイチア內地ノ土人ニアリテモ、女子ハ小動物ヲ捕獲シ、之ヲ食用ニ供シテ居ルコトヲ見ルノデアル。今此等ノ事實ニ注目シ、而シテ之ヲ動物社會學ノ研究ヨリ立テタル前定、卽チ最モ原始的ナル時代ニ於テハ、人類ハ防衞ノ必要ヨリシテ多少組織アル社會團體ヲナシナガラ、而モ天產物ノ豐富ナルガ爲メ一般ニ個人的ニ食物ヲ探求シテ居ツタト云フ假說ニ照ラシテ考察スルト、男女ノ生產的分離ハ最原始的現象デナイト思ハレルノデアル。詳シク云ヘバ、草根木實小動物等男女共ニ容易ク採集シ得ル天產物ノ豐富ナル最原始時代ニアリテハ、男子モ特ニ狩獵又ハ漁魚ヲ行ナフ必要ハナク、男女共ニ同樣ノ食物ヲ大體上個人的ニ探求シテ生活シテ居ツタカラ、從フテ男女間ニ生產的分離ハ存在シナカツト思ハレルノ

デアル。更ニ男子ガ狩獵ニ從ヒ、女子ガ漁魚ヲ專ラトスル自然人民ノ存在スルコトヲ考フルモ、男子ガ狩獵、漁魚ヲ專ラトシ、女子ハ植物ノ採集培養ヲ專ラトスル男女ノ生產的分離ハ、最原始的ノモノデナイコトヲ推察シ得ラルヽト思フ。然ラバビユヒヤー氏ノ如ク之ヲ以テ原始個人的食物採求ノ殘存物ト解釋ス可キカト云フニ、余ハ此解釋モ直チニ承認スルコトガ出來ナイ。先ヅ氏ハ如何ナル根據ヲ以テ此ノ如クニ解釋セラルヽカヲ吟味セヲバナラヌ。今氏ハ如何ナル理由ニヨリテ之ヲ原始個人的食物採求時代ノ殘存物ト解セラルヽヤト云フニ、其理由ハ明瞭デナイ。氏ハ唯「サレド總テ此等ノ事實ハ一ノ共同的始源、卽チ幾千年間總テ此等ノ人民ニヨリテ實行サレテ居ツタ個人的食物探求ニ跡ヅケ得ラルヽコトハ否定スルコトハ出來ナイ」ト云ハレテ居ルバカリデアル。併シ氏ハ、恐クハ、此生產的分離ハ男女ノ天賦ノ稟性、卽チ本來ノ體質及ビ性質上ノ差異ニ一致シテ居ラナイカラ、此差異ヨリ發生セルモノデナイ、隨フテ其原因ヲ他ニ求メヲバナラヌト云フコトヲ其主要ナル「理由ト考ヘラルヽノデアラウト思ハレル。サレド果シテ氏ノ考ヘラルヽ如ク、此生產的分離ハ男女本來ノ差異ニ一致シテ居ラナイデアラウカ。シユルツ氏ノ如キ

土俗學ノ大家ハ此生產的分離ヲ男女ノ體質及ビ性質ノ差異ニ歸シテ說明シ、男子ガ動物性食物ヲ、又女子ガ植物性食物ヲ獲得スルハ、是レ男女各其獲得スル處ノモノヲ特ニ愛好スルガ爲メデナク、狩獵ハ植物性資料ノ採集ヨリモ一層大ナル努力ト結ビ付キ、又一層大ナル勇氣ヲ要スルカラデアル」ト云ハレ、又カフオン、デン、シユタイヲン氏ノ如キ著名ナル探險家ニシテ、ビユ、ヒヤー氏ガ其主張ノ主要ナル一根據トシテ居ルシングインヂアン人ヲ直接ニ研究セル人モ、サキニウオドン氏ノ說ヲ紹介セシ場合ニ述ベシ如ク、彼等ノ間ニ於ケル此生產的分離ヲヤハリ男女ノ體質及ビ性質上ノ差異ニ歸シテ說明シテ居ルノデアル。然ルニ余ノ考フル處ニヨレバ男女ノ體質及ビ性質上ノ差異ト云フコトニ就テ古來一般ニ行ハレテ居ル思想、卽チ女子ハ男子ニ對シテ本來其體質ニ於テ又其性質ニ於テ弱キモノデアル、劣ツテ居ルモノデアルト云フ思想ニ關シテハ大ニ注意セヲバナラヌコトガアル。夫レ近來婦人運動ノ勃興ニツレテ、男女間ノ差異ト云フコトハ大ニ研究セラレテ來タガ、今此等ノ研究ニヨレバ、從來信ゼラレテ居ツタ樣ナ差異ハ、果シテ原本的又原始的ノモノデアルヤ否ヤハ大ニ疑ハシクナツテ居ルト思フ。一派ノ論者ハ文化人民

ノ間ニ於テ見ルガ如キ男女ノ差異ハ歷史的事情ト陶汰ノ結果トシテ起レルモノニシテ、決シテ原本的ノモノデモ原始的ノモノデモナイ、始メハ女子ハ其體質ニ於テモ又タ精神上ノ性質ニ於テモ男子ト異ナラズ、男子ニ劣ツテ居ラナカツタト主張シテ居ル。例ヘバ伊太利ノ社會學經濟學ノ大家ロリア氏ノ說ノ如キモノデアル。Loria, La feminisme, Revue intetnational de sociologie, 1907. 尙ホ此問題ニ就テ詳シクハ大阪每日新聞社北陸巡廻講演集ニ收メラレテ居ル余ノ講演「現代婦人運動」參考 併シカヽル主張ハ十分ナル根據ヲ有セズ、アマリニ極端ニ走セタル偏見デアルトシテ斥クルモ、尙ホ文化發展ノ階段ヲ下ルホド男女ノ差異ノ減少スルコトハ否ム可カラザル事實デアルト思フ。更ニ原始時代ニ於テハ此差異ハ恐クハサホド大ナルモノデナカツタデアラウト推察ス可キ生理學的及ビ土俗學的事實ハ少ナクナイト思ハレル（此等ノ事實ハ玆ニ列擧スル暇ガナイカラ省テ置ク。）要スルニ男女ノ差異ニ關シテ今日一般ニ行ハレテ居ル思想ヲ以テ、自然人民間ニ於ケル男女ノ分業ガ男女本來ノ差異ニ適合スルヤ否ヤヲ判斷セントスルハ穩當デナイト信ズル。サレバ男女ノ生產的分離ガ男女本來ノ差異ニ適合シテ居ラナイト見テ、其ノ解釋ヲ試ミントスルビユヒヤー氏ノ見解モ、亦之レニ適合シテ居ルト見テ其原因ヲ究明セントスルシユルツ氏ナ

ゾノ說モ共ニ穩當デナカラウト思フ。然ラバ如何ニ此生產的分離ノ事實ヲ說明ス可キカ。サキニ述ベシ余ノ假說ニヨレバ、最モ原始的ナル時代ニ於テハ人類ハ防衞ノ必要ヨリシテヤ、組織アル社會團體ヲ作リナガラ、而モ其內部ニ於ケル食物獲得ノ方法ハ個人的探求デアツタノデアル卽チ植物的竝ニ動物的天產物ガ豐富ナリシ爲メ、之レガ獲得ノ爲メニ勞働ハ分化スル必要ハナク、男女老幼各々自己ニ必要ナル食物ハ大體上自カラ之ヲ獲得シテ生活シテ居ツタノデアル。然ルニ人口ノ增加スルニ從フテ、天產物ハ相對的ニ減少シ、食物獲得ノ爲メニ一層積極的ナル努力ヲ要シ、茲ニ先ヅ單純ナル狩獵及ビ漁魚ガ發達シテ來タ。然ルニ女子ハ姙娠ノ爲メ、更ニ兒童養育ノ爲メ（但シ土俗學的研究ニヨレバ自然人民間ニアリテハ兒童ノ養育ハ全ク或ハ主トシテ女子ノ任務デアル。）狩獵ヤ漁魚ニ於テ要スルガ如キ比較的ニ激シキ運動ヲナスヲ得ズ、又アマリ遠ク住所ヲ離ル、コトガ出來ズ、夫レヨリシテ主トシテ住所ヲ遠ク離ル、必要ナキ勞働ニ從フコト、ナツタノデアラウト思フ。卽チ主トシテ家事ニ關スル勞働及ビ住所ノ附近ニ於ケル植物性食物及ビ小動物ノ採集ニ從フコト、ナツタノデアラウト思フ。（余ハ此ノ如キ余ノ新說ヲ證明スル爲メニ數多ノ土俗學的事實ヲ蒐集シテ居ルガ、茲ニ之ヲ列擧スル暇ガナイカラ省テ置ク。）余ハ此ノ如クニシテ男女ノ生產的分離ハ根本的ニ發生

シタノデアラウト考ヘル。而シテ此生產的分離ガ又消費ノ上ニ影響シ、後ニ述ブル如ク、大體上男子ハ專ラ動物性食物ヲ食シ、女子ハ主トシテ植物性食物ヲ食スルト云フ習慣ガ發生シ來リ、更ニ此ノ生產的及ビ消費的分離ガ男女ノ身體的及ビ精神的性質ノ分化ヲ誘致スル根本的一原因トナツタノデアラウト信ズル。以上述ベシガ如クニ考フルニ於テハ、男女ノ生產的分離ハ經濟的發達ノ一現象デアルト認メラル、ト同時ニ、又其根抵ハ大初ノ個人的食物探求ニアルト認ムルコトガ出來ルノデアル。サレバ余ハビユヒヤー氏ガ此生產的分離ニ就テ個人的食物探求說ヲ徵驗セントスル方法ハ不明瞭デアリ又穩當デナイト思フガ、併シ其主意ニ於テハ誤ツテ居ラナイト考ヘルノデアル。卽チ余ノ如クニ解釋スルニ於テハ此生產的分離ハ原始個人的食物探求時代ノ存在ヲ暗示スルモノト見做スコトガ出來ルト考ヘルノデアル。但シ此生產的分離ガ現實ニ表ハス處ノ種々ナル箇別的形態ノ發達スル上ニハ、グローレー氏ノ說ク Sexual antagonism ヤ又ウォドン氏ノ主張スル如ク、種々ナル魔術ハ重要ナル影響ヲ及ボシテ居ルト思フ。併シ余ハ玆ニハ唯根本的原因ヲ究明スルニ止メントスルノデアルカラ、此等ノ影響ニハ論及セズニ置ク。

終リニ男女ノ消費的分離ニ就テ少シク論ジテ置クガ、余ハ更ニ之ヲ男女間ノ食物ノ種類ノ差別ト、共同食時ノ有無ト云フ二箇ノ問題ニ區別スルガ便宜ト思フ。先ヅ食物ノ種類ノ差別ニ就テ論ゼンニ、男子ガ專ラ動物的食物ヲ食シ女子ガ主トシテ植物性食物ヲ食スルト云フ習慣ハ自然人民ノ間ニ汎ク行ハレテ居ルト思ハレル。啻ニ自然人民ノ間ニ於ケルノミナラズ、文化人民ノ間ニ於テモ其痕跡ヲ發見スルコトガ出來ルノデアル。併シ余ハサキニ生產的分離ヲ論ゼシ場合ニ暗示セル如ク之ヲ以テ最モ原始的ナルモノト見ルハ穩當デナイト信ズルノデアル。今ゾムロ氏ガ現存ノ、自然人民中最モ原始的ナルモノトシテ研究シテ居ルモノニ就テ見ルモ、大體上此習慣ノ存在スルコトガ認メラレル。又トンナル氏ノ研究ニヨレバコンゴー河灌域地ヲ彷徨スル「ピグメー」(矮人)ノ間ニモ此習慣ノ存在スルコトハ明ラカデアル。(トンナル氏ノ著書ハサキニ掲ゲテ置イタ。)然ルニシュルツ氏ガ「ブシュマン」人ニ就テ、モズスコウスキー氏ガ「バブア」人ニ就テ注目セル如ク、此等ノ比較的ニ最モ原始的ナルモノニアリテハ、女子モ自カラ容易ク、又ハ犬ヲ使フテ捕獲シ得ラル、小動物ノ肉ハ食用ニ供シテ居リ、更ニ男子モ決シテ動物性食物ノミヲ食スルノデハナク、ヤハリ女子ノ採集

シ又ハ培養スル植物性食物ヲモ食シテ居ル。而シテ菜食主義ノ理論ハトニカクトシテ、實際ニ於テハ人類ハ唯植物性食物ノミニヨリテモ、亦唯動物性食物ノミニヨリテモ生活スルコトハ出來ナカラウト思フ。隨フテ嘗テカヽル時代ノ存在セシコトハナイト思フ。カノ主トシテ魚肉ヲ以テ生活シテ居ル［エスキモー］人ハ海上ヲ漂泊シ來ル植物ヲ非常ニ珍重スルト云ハレ、又食人俗ハ主トシテ植物性食物ノミニヨリテ生活セザルヲ得ザル境遇ニアル自然人民ガ、動物性食物ノ必要ヲ感ズルヨリシテ起レルモノデアルト云フ說モアル。但シ余ハ此說ニハ未ダ充分ナル根據ヲ認ムルコトガ出來ヌ。サレバ男女ノ間ニアリテモ、何レモ唯一種ノ食物ノミニヨリテ生活スルコトハ不可能デアリ、隨フテカヽル時代ハ嘗テ存在シナカツタデアラウト考ヘル。故ニ男女ノ間ノ食物ノ分離ハ原始時代ニ遡ルホド絕對的性質ヲ帶ビ、而シテ最モ原始的ナル時代ニハ絕對的ナル形態ニ於テ存在セシモノヽ如クニ考フルハ穩當デナイ。然ラバ現存ノ自然人民ノ間ニ存在スル此習慣ヲ起源ノ如何ニ解ス可キカ。此習慣ノ起源ニ於テハ魔術ハ生產的分離ニ於テヨリモ一層重要ナル影響ヲ及ボシテ居ルト思フ而モ根本的ニハ、余ハ此習慣ハ、サキニ述ベシ如ク、生產ノ分離ニ隨伴シテ起レルモノデアルト

見ルノデアル。サレバ之ヲ以テ經濟的發達ノ一現象ト見ルト同時ニヤハリ原始個人的食物探求ノ跡ヲ示スモノト認メルコトガ出來ルト思フ。余ハ此點ニ於テモビユヒヤー氏ノ說明ハ不明瞭デアリ、又穩當デナイト考ヘルカ、併シ其主意ハ誤リテ居ラナイト思フノデアル。要スルニ余ハ男女ノ食物ノ分離ニ就テ原始個人的食物探求說ヲ徵驗スルコトガ出來ルト信ズルノデアル。

次ニ男女間ニ共同食時ノ存在シナイト云フコトニヨリテ原始個人的食物探求說ヲ證明セントスルビユヒヤー氏ノ見解ヲ論究センニ、今此習慣ヲ以テ個人的食物探求說ヲ證明セントスルニハ、啻ニ男女間ニ共同食時ノ存在セザルコトノミナラズ、更ニ男子間ニモ亦女子間ニモ共同食時ノ存在セザルコトヲ證明スルコトガ必要デアル。サレバビユヒヤー氏ノ說ヲ祖述スルドンナル氏ハ氏ノ研究シタルコンゴー河灌域地ニ彷徨スル「ビグメー」ニ就テ、男子間ニ於テモ、亦女子間ニ於テモ、個人ハ食事ヲナス爲メニハ各々他ヨリ隔離スルト云ハレテ居ル。併シシミアン氏ハ之ヲ評シテ「此ノ重要ナル事實、此ノ完全ナル經濟的孤立（氏ハ男女ノ食物ノ分離ナモ其内ニ含メテ云ハル、樣デアル）若シ眞ニ原始的ナルモノナランニハ、吾人ハ此事實ヨリシテ恐クハ多クノ思想ヲ引キ出

シ或ハ歸納シ得ルデアラウガ）ハ充分ニ分析サレテ居ラナイ。更ニ此等ノ種族ハ恐クハ全ク原始的ナル階段ニアルモノデナカラウ云々」ト云ハレテ居ル。Simiand, L'année Sociologigue, Tome VI, p, 485. 又サキニ述ベシ如クゾムロ氏ハ此習慣ハ最モ原始的ナル現存ノ自然人民ノ間ニハ存在シテ居ラナイト云フテ居ル。更ニサキニ述ベシ如ク、共同ニ食事ヲナス習慣ハ黑猩々ノ間ニモ存在シテ居ルト云ハレテ居ル。併シ此共同食時ノ存在シナイト云フコトニ付テハ今日土俗學ノ敎ユル處ハ尙ホ不充分ニシテ一層詳シキ研究ヲ要スルコトヽ思ハルヽカラ、今日デハ此點ニアマリ重目ヲ置クコトガ出來ナイト考ヘル。ソレデ今回ハ別ニ此點ニ就テハ論ゼズニ置キ、他日一層正確精細ナル土俗學的研究ノ行ハレタル上ニテ論究スルコトヽスル。

以上述ベ來リシ處ニヨリテ考フレバ、男女ノ生產的及ビ消費的分離ニ就テ個人的食物探求說ヲ徵驗セントスルビユヒヤー氏ノ企テハ、其理由トスル處充分明瞭ナラズ、又穩當デナイト思フガ、併シ其主意ニ於テ誤ツテ居ラナイト考ヘル。ツマリ余ハビユヒヤー氏ノ主意ハ正當デアルト認ムルガ、併シ其實際ノ徵驗ハアマリ成功シテ居ラナイト思フ。而モ余ノ下セル新シキ解釋ニヨレバ氏ノ企テヲ實際ニ成

功セシムルコトガ出來ルト信ズルノデアル。

却説余ハ上文論述セルガ如キ意味ニ解シテビユヒヤー氏ノ個人的食物探求説ヲ承認シ、最原始時代ニ於テハ、人類ハ個人的探求ニヨリテ生活シテ居ツタト考ヘルノデアル。サレバ最原始時代ニ於テハ、大體上交換ハ絶無デアルト云フコトガ出來ルト思フ。而シテカヽル狀態ヨリゾムロ氏ガ現存ノ自然人民中最モ原始的ナルモノヽ間ニ發見シタル一ノ複合的ナル經濟團體卽チ相互依屬的ニ經濟ヲ營メル個人ト小サキ團體ヨリ成立シ、而シテ財貨循環ノ原始組織ヲ具ヘタル複合的經濟團體ニ發展シ來ル間ニ、交換ハ徐々ニ發生シテ來タノデアルト考ヘル。然ラバ交換ハ如何ニシテ發生シタルカハ、余ノ次ニ考究セントスル問題デアルガ、之レニ先ダチテ更ニ封鎖的家屬經濟説ニ就テ少シク論述シテ置カウト思フ。ソレデ次回ニ於テハ、先ヅ封鎖的家屬經濟説ヲ論ジ、終リニ交換ノ起源ヲ論ジテ以テ本論文ヲ完結スルコトヽスル。

（未完）